

令和3年度 第1回 大阪府立泉北高等学校 学校運営協議会 議事録

- 日時：令和3年8月20日（金） ただし、書面送付により意見集約を行う
- 運営協議会委員
 - 菊田 久雄（大阪府立大学 工学域長）、中谷 浩治（堺市立若松台中学校校長）
 - 中村 俊一（立志館ゼミナール館長）、池内 博一（追手門学院大学 准教授）
 - 樋川 友子（泉北高校 PTA 会長）、榎 さゆり（泉北高校後援会 会長）
- 資料について、メールでいただいたご意見は以下のとおり（表記については一部訂正済み）
 - 遅刻者が多いように見える。昨年はコロナ禍で休校も長く、生活のリズムが取り戻せない生徒が多かったのか。季節的、月別で変動があるのか。家庭と学校が連携して、生徒の生活習慣を助けることができるようお願いしたい。
 - SSHの取り組みは、生徒の学習意欲向上に大いに役立っている。昨年はコロナ禍で2年生の「科学探求Ⅰ」の開始が例年より遅れ心配していたが、今年6月に「課題研究発表会」が行われ、生徒の努力や先生方のご指導が素晴らしいと感じた。ただし、実験の回数不足、サンプル数の少なさ、失敗に対する改善の対応など日程の関係上か十分できていない研究班があったので、今後の取り組みでは経験をいかしてご指導をお願いしたい。
 - SDGsの地域連携活動は社会での役割、自身の成長を学習できる素晴らしい取り組みである。引き続き、生徒が自主的に社会貢献できる取り組みをお願いしたい。
 - まだまだコロナ禍が続くと思われるが、生徒たちが充実した学校生活を送れるよう願っている。
 - 学校運営計画及び学校評価について、令和2年度はコロナ禍が続き、(一)が多いのは仕方がないところである。また、その影響からか(△)が多いのが気になるが、令和3年度での解消に期待する。
 - 英検2級の合格者も増え、準1級+1級合格者で10名を達成され、健闘された。海外留学ができなかった分、英語力のアップに注力されたのが分かる。
 - 令和3年度では、1.新しい時代のキャリア教育のエ.オ.において、地域連携に重点、図書館の活用を新たに目標に掲げられていて、地域に根差した教育活動を促進されることには賛意と期待する。
 - SSH事業計画書について、SSH校としてはすでに伝統校であり、仮説3. 仮説4. が泉北高校が独自に取り組める視点であるから、その利点を活かして他SSH校との差別化に取り組まればよいように思う。SSHの報告書は、いつも丁寧にできていて真摯に取り組まれているのがよく分かる。
 - 令和3年度進路資料について、50期生の進路がほぼ決まっているのが大変素晴らしい。今後さらに希望の進路を実現できるような指導をお願いしたい。また、51期生用に分かりやすく進路実現の指導がなされていて良いと思う。
 - 昨年と今年を比べて整理されていると思う。実施される様期待している。
 - 昨年から新型コロナウイルスが猛威を奮っている中既に尽力されていると思うが、オンライン授業を素早く実施出来る態勢を強化していただきたい。
 - 卒業生への追跡調査(卒業生の声)について、学校が設定した目標や計画に沿った生徒の学びが、進学先や就職先において活用されている状況をどういう形で現役高校生に還元し、また、教員が今後の修正材料としてどのようなタイミングで生かされているのかに興味がある。

- TOEFL、TOEIC、英語検定について、高校では全員が受検する対象として、学校全体あるいは学年全体として取り組んでいるのか。合格者数は知らされませんが、受検者数に対する合格者数の割合がわかりません。また、学校としての取り組み方や、生徒の意欲を高めるための啓発方法が気になる。さらに、大学入試につながるものとして、それらの扱い方にどの程度の差異があるのかも興味深い。
- 生徒の学校生活について、遅刻に対する考え方はおおむね家庭教育の範囲ですので、学校は生徒に対して啓発することや保護者に協力を求めることしかできない。遅刻を恥ずかしいこととしてとらえていれば改善の見込みがあるものの、よほど強い目的意識を持たせることができなければ改善は難しいものと思われる。遅刻総数は明らかにされているが、延べ人数方式は一概に多いのか少ないのか不明である。中学校にも言えることだが、遅刻する生徒はおおよそ固定メンバーであり、遅刻せずに学校生活を送っている生徒が圧倒的に多いのが現実である。遅刻数の少ない（できればゼロ）生徒数に光を当ててもらいたい。
- 大学進学と部活動について、「文武両道」が学校全体のスタンダードになれば一番いいと思うが、実際には非常に困難な課題であると思われる。泉北高校はのびのびと部活動をし、入部率も高く、種目によってはとても立派な成績を上げていると聞くが、最後まで部活動を継続できた生徒がどれだけ卒業後の希望進路に進むことができたのかとても気になる。スポーツ推薦で大学進学できるのはひと握りの生徒だと考えられることから、部活動生活を送りつつ、希望する進路に進むためには本人の努力あるのみである。部活動による時間や体力面における犠牲をいかにカバーするのか、進学校としての実績を重ねていくために実践されている進路指導の在り方に興味がある。
- 学校経営計画に見る教員の働き方について、年間を通じて生徒が関わる全ての行事に先生方の指導が必要となることを考えると、生徒も先生も極めて忙しい高校ではないかと感じる。教育への情熱なしには語るできない内容にただただ頭が下がる思いである。
- 中期目標の設定には含まれないが、コロナウイルス感染あるいは濃厚接触による欠席者への授業補講は行われるのか、また、補講を実施する場合の具体的な方法はどうか。

○ 送付資料

資料1	学校運営協議会関係者名簿
資料2	大阪府立泉北高等学校 学校運営協議会 実施要項
資料3-1	令和2年度 学校経営計画及び学校評価
資料3-2	令和3年度 学校経営計画及び学校評価
資料4	SSH 事業計画書（抜粋）
資料5	泉北高校 学校案内
資料6-1	2021年度入試 50期生進路先
資料6-2	51期生 5月進路希望調査
(冊子)	スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告書・第4年次
(冊子)	令和3年度進路資料

○事務連絡（第2回および第3回学校運営協議会の日程について）

- ・ 第2回 令和3年11月26日（金） 14:30～16:00 （予定）
- ・ 第3回 令和4年 2月 4日（金） 15:45～17:00 （予定）